

ちよっぴ
ひといき...

茶ぐわ〜ゆんたく

147



「長田の道を行く」

上の写真は、1966（昭和41）年に撮られた長田の通りです。戦前、字宜野湾から中城村南上原へ続く道として利用されていきました。写真の当時はこの辺りが区中心でした。道沿いには瓦屋根と木造の家が並び、1972（昭和47）年には、長田区公民館が建てられました。



▲1966（昭和41）年 長田

下の写真は、現在の同じ通りです。大学と小学校が近くにあり、20年ほど前には新しい県道32号線（長田サンエー前の通り）が作られ、新しい家やアパート、店などが増えています。今は国道330号からの直接進入はできませんが、志真志方面への抜け道として多くの車が行き交います。

【問合せ】

市立博物館 ☎870-9317



▲2016（平成28）年 長田 現在の長田区公民館はこの通りにあります。

ぎのわんの 歴史・文化遺産を歩く

其の26

〈普天間飛行場⑨〉

はじめに

今月は市教育委員会が昨年度までに実施した普天間飛行場内での文化財調査の内容や成果などを速報として紹介します。

昨年度は、普天間飛行場内の南東側で文化財調査を行いました。

文化財調査の内容

今回の調査は、平成二十六年年度の試掘調査の際に文化財が確認された場所が調査地となりました。主な調査場所は、赤道地区、神山地区、宜野湾地区となり、各地区に一カ所ずつの調査区を設けました。各地区で対象となる文化財には、沖縄戦前後の畑跡、お墓などの種類がありました。

調査の成果

今回、発掘調査を実施すると、赤道地区や神山地区の調査区で畑跡などに関わると想定される痕跡として、土地の区画跡などが見つかりました。区画跡には、単に溝を掘っただけのものもあれば、溝の壁が崩れないように石を利用した溝もありました。これらの溝跡は土地の境界と概ね合致していたことから、土地や畑の区画として掘込まれた可能性が考えられます。また、畑跡などとは別に、宜野湾地区の方では古墓も確認されました。調査の対象となった古墓は、疏

球石灰岩の岩陰部分を利用したもので、一基は岩陰の前面に切った石を箱型に組んで墓口を設けた古墓、もう一基は岩陰の開口部の途中までで石で積んだ古墓の合計二基がありました。

このような古墓や畑跡などに伴う痕跡は、普段目にする機会が少ないかと思いますが、文化財調査によって多くの方に見てもらえることで、地域の歴史や文化により興味を持って頂ければと思います。

【問合せ】

文化課 ☎893-4430



調査で確認された古墓（宜野湾地区）